
あなたのせい ~ girls' blame ~

白牛乳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あんたのせい　↳　girls'　blame　↳

【Nコード】

N2317P

【作者名】

白牛乳

【あらすじ】

私は女子校に通う可憐な女の子。だが女の子によくモテる。「男に見向きもされないようにしてやるうつつ」　彼女はそう言つて、「女の子にモテモテになる呪い」をかけた。少しズレている気がしないでもない。中2の春のことだった。ただでさえ女子だらけの全寮生活。私の青春から「男子」の文字は完全に消え失せた。

第1輪目 白百合のノロイ

「好きです」

「ごめんなさい」

このやりとりを、

一体今まで、何度繰り返したのだろうか。

女の子達の気持ちは嬉しいし、

こちらにも「好き」と言いたいよ（like的な意味で）

でも、此方側と其方側には、どうしても越えられない壁があります。

誰に告白されても、絶対にOKは出せないんです。

私はノンケだから。

というのも、私も女だからです。

思えば、最初に女の子に告白されたのは
中2の春でした。

そして、現在のこの状況があるのは、
その少女の仕業なのです。

「…え？どしたの？
練習してるのかな？」

突然の告白に私はたいそう驚きました。

「練習じゃないよ。これが本番。
あなたに言ってるの」

その黒髪の少女は
頬をほんのり朱色に染めながら言いました。
背景の美しい桜吹雪や、彼女の、実に柔らかな雰囲気
正直くらっときました。でも私は女。

彼女は私の友達でした。

1年生のころから好きだったそうで、
今まで告白のチャンスをうかがってたそうです。

ですが、私は女子。

当然丁重にお断りさせていただきました。

「フツたね…。
私をフツたね……ッ！」

黒髪の女の子は案の定泣き出しました。
しかし、それだけではなく、
憤怒の感情もひしひしと伝わってきました。

「ばーかッ！」

あ、あんたは今後！

一切男に見向きもされなくしてやるうううう！

バーカ！
バーカ！
バーカ！

shit!! fuckin' you, bitch!!

slu
o!
!
w
o
r
e!
!

! ! ! ! ! ! ! ! ! !

唾を散らしながら、大声で卑猥な英単語を叫ぶと、黒髪の女の子は走り去っていきました。

…私がこの時感じていたのは罪悪感だけで、

「男に見向きもされなくなる」ことの意味に、

脳は微塵も触れませんでした。つまり忘れていました。

次の日のことです。

「あのね……好き、なの」

ポニーテールの少女は、

私の親友でした。

色恋沙汰には、全く興味の無さそうな、

活発で陸上部一筋の、明るい女の子でした。

健康的な褐色の肌には夕日が良く映えていました。

実はくらっと　ゴホン。
お断りさせていただきました

「そっだよねッ
女の子だもん」

私は昨日の出来事を思い出しております。

——「男に見向きされなくてやるうつ!!」
f o c k ! ! f o c k ! ! f o c k ! ! f o c k !
! f u u u u u o k ! ! ! ——

第2輪目 聖フラワービューテホー学園女子寮

入学前から思っていましたが大
とんでもなくセンスの無い学園名であります。

ちなみに、

気持ち良いほど時代遅れの脳味噌をしている理事長の中では

「ざんぎり頭を叩いてみれば、文明開化の音がする」

が未だに最流行語だというのは

この学園のセブン都市伝説の一つ。

余談はここまで。

さて時間軸を修正しましょう

さきほどまでのお話は私の回想であります。

今現在、私は新高校1年生。

この学園では高等部から、敷地内に設置されている寮で
男子禁制の全寮生活がスタートします。

つまりいよいよ、私の青春から

健全な恋愛、という文字が完全に消えてしまう時がやってきたと
いう事です

さよなら。私の甘酸っぱい恋物語…

今日は3年間付き合うことになるルームメイトの発表
修学旅行の班決めどころの緊張感ではありません。

システムは、大学の合否発表のように
大きな板に名前がビッシリと書かれてあるのを自分で探すスタイル。

「あつやった！ふふー、やっぱり赤い糸で結ばれてるんだ
これから3年間、愛の同棲生活を楽しもうね」

などと戯言をほざいているこの女の子は、例の黒髪少女
リッチー・雅^{みやび}。
はい、今笑った人は負けです。

どこかの国の皇族の血を継ぐお母さんと
今流行の普通の「主夫」のお父さんを親に持つハーフで、
日本人離れ（厳密に日本人ではないが）した美しい顔面と
高貴でおしとやかな仕草が大人気のお嬢様ガール。
しかし、怒ると俗英単語連弾を発射してくることは私しか知りません
せん

ちなみに趣味は呪術と女の子。

「あっ…、一緒…」

一緒！一緒だよ！やった！」

可愛らしい声ではしゃぐこの小柄な娘は

呪いの後、一番最初に告白された陸上部のあの子。
ひとつばしじょう
一ツ橋涼。

可愛い。だが執拗なストーカー魔で、

あの告白以来、さまざまな被害にあいました。そう、さまざまな…

「やった やった」

「やった やった」

変人ばかりの学園（変人たちの紹介は後ほど）でも
指折りの変態ストーカー魔二人が、
歓喜に震え、キャッキャウフフ。

完全にハズレくじであります…。

ひとしほしりょう
一ツ橋 涼
リツチー・雅 みやび
るかわさなえ
流川 早苗

└

第3輪目 胸騒ぎの音楽祭

「早苗ちゃん！早苗ちゃん！

入学式だよ。高等部の入学式！早く起きて！」

朝からやかましい声に目を開けてみますと、
褐色の女の子の顔が目の前にありました。
涼です。

「わ、分かったから退いて。

…うわ、時間ほんとにまずいじゃん！
早く着替えないと遅刻…」

「着替えなら、早苗ちゃんが寝てる間に済ませといたから！
ついでに歯磨きと、洗顔もしといてあげたし、すぐ登校できるよ」

え？

妙にゴワゴワする体を見ると、ああ確かに。
もう制服が着せられておりました。
…ほんとだ。口も顔もスースーする

「あ、…ありがとう…」

恐ろしい娘や……。

私は失笑を浮かべると、
彼女を引き連れて学校へ向かいました。

「……で、あるからして。

たかみなよりあっちゃんの方が可愛いのです。
VIVA！あっちゃん！」

理事長とは逆に、

流行に敏感な（正確には流行のアイドルに、ですが）校長が
学校生活とはとんでもなく関係の無い熱弁を、
入学式開会から、延々と30分続けておりました。

ちなみに私は、

国籍は違いますがAKBより、少女時代派です。

……ようやく校長の式辞が終了すると、
司会の生徒会長が口を開きました。

「ありがとうございました。

続いて……、

…ビューテホー学園音楽祭を同時開催します！

盛り上がっていくぞ！ゴニ野郎共！」

会長がマイクを放り投げると、

なんと二、三年生が一斉に歓声をあげたのであります。

え？え？何、何コレ。

私を含め、一年生達は随分戸惑っているようで。

私は涼に問いました。

「り、涼、何なのこれ。

あんた姉ちゃん居るでしょ？知らないの？」

「し、知らないよ。

何だろ、音楽祭って言った？」

おろおろしていると、

再び生徒会長が叫びました。

「トップバッターは！

期待の一年生歌姫、リッチーiiiiiiii、みやあああびiiiiiiii
！」

「雅？雅って言ったよね」

「雅様が出るの？」「ええ！？雅様が私達の為に歌って下さるって？」

「素敵…」「雅iiiiiiii！」

ああ、どうりで朝居なかったわけだ。

「リッチー・雅」、の名を聞き、

一年生からも大きな歓声が巻き起こると同時に

一斉に雅コールが叫ばれ、大体育館は熱狂の渦に飲み込まれて…。

す、すごい人気、さすが雅です。

何しろ去年の準々ミス・ビューティフルに輝いた娘ですから。

（すみません。優勝は私でした…）

そのコールに答えるように、

袖からゆつくりと登場する雅。

淑やかな歩みでスタンドマイクの前に立つと、上品な挨拶を始めました。

「みなさん、ごきげんよう。」

トップバッターを務めさせていただく、雅です。

今日は私のwishが、みなさんのheartに届く事を祈っています。

稚拙ながら一生懸命歌いますので、どうかよろしくお願い致します」

グランドピアノの音が一音響くと会場は一気に静まり返り、彼女を見守る温かい視線が舞台に集中するのでした。

彼女は深く息を吸うと、その柔らかな唇を開いて、美しい声で歌いだしました。

第4輪目 その琴線にくちづけを（前書き）

更新頻度あがってきたー

自分でもびっくり

すごーい自分

第4輪目 その琴線にくちづけを

感動！

何なんだあの歌唱力。

歌に吸い込まれて、危うくくらっと…

会場は感涙を流す者で溢れかえり、中には興奮の余り。〇。してしまった者もいるようです。百合趣味もここまでくるとサイコパス！

ただ、彼女の歌には本当に感動しました。美しいソプラノで皆を魅了し、全員彼女の世界の虜に。

素晴らしい！変態だけど、これには拍手です！

一礼すると、雅は退場しました。まだ拍手は鳴り止みません。しかし、会長が再び強引に叫びました。

「いい加減黙れやゴミクス共おお！！！！よく聞けえ！次は本命、

聖フラワービューテホール学園を代表する
超クールなガールズメタルバンドツツ！
「ドレミファツキユツ」だあ！！！！」

「う、うわあああああああああ
「ドレミ！ドレミ！」

「きたあああああああああああああ」

紹介されたバンドは4人組の制服少女達。
一年生には何がすごいのか分かりません。
これは二、三年生の大歓声です。
もしかしたら雅の時より沸いてるかも…。

「こんにちわ！

ドレミファツキユツ です！

ボーカルを務めさせていただく私は、

「ド」でえーす！

今日もよろしくお願いしまーす！」

どこがメタルですか笑

あんな可愛い女の子があんなガチャガチャした音楽なんてするわけ…！

ふふ、どんな下手糞な演奏をしてくれるのか楽しみです。

所詮高校の音楽祭。某有名けいおん部に憧れて即席で組んだに決まっています

ふふ、私には全部全てまるっとするっとお見通しだ！

…言ってみただけです
ちなみに私は断固 R & a m p ; B です

「じゃあ始めるよ！

「レ」！ギターソロどうぞ！」

レ、と呼ばれたギター少女はゆっくりとギターを構えると、
イングヴェイ・マルムスティーンばりの速弾きをかましました。
えっ。何この娘 尋常じゃないわ

しばらくギターソロで観客を沸かせると
おそらく「ミ」と「ファ」であろう、ドラムとベースの少女が
とんでもないリードギターに合わせて演奏を始めます。

すると「ド」が、
短く整えた髪を振り乱し、
狂乱ヘッドバンキングを始めたではありませんか。

そして、その小さな口を思いつきり広げて
さっきまでの可愛らしい挨拶からは
想像も付かない絶叫を發しました。
まるで楽器です。声という楽器です。
歌詞は恐らくあるのでしょうが、字幕がないと分からないでしょう。
う。

ワンコーラス終わらないうちに、
ガチャガチャに免疫のない女の子達が何人か席を立ち、退場して
いきます。

「イエエエエアアア！」

ロックじゃねえやつは出てけえええ！バーカ！」

生徒会長が袖から乱入し、
大声をあげて威嚇します。怖い。

そうこうしてる間に間奏。

「アタシの音楽がわからないヤツはクズだ！」

レは、イングヴェイの名言を叫ぶと歯ギターを披露しました。
客は半分ほどに減ってしまったものの、会場はフルボルテージ。
ヴォーカルのパフォーマンスもいつそう激しさを増します。
ポケットからコウモリのおもちゃを取り出し、
それをクチャクチャと噛んで、ついには飲み込んでしまいました。
どこのオジー・オズボーンですか。

もう限界です。

私は席を立ちました。

第5輪目 入寮初夜は恋の薫り

その後、

「クイーン」のヴォーカル、フレデー・マーズが百合趣味である事が明かされたり、

「LADY GOGO」のストリップまがいの半裸パフォーマンスで風紀委員が規制にかかったり、

「百合カップルユニット」で推していた「t a t u -」が、実はお互い遠恋の彼氏持ちだったことをカミングアウトしたり…

（意味の分からない人は気にしなくてOKです）

とりあえず4時間後、

大トリのザ・フームのドラマー、キスマンによるドラムセット爆破で、

気持ち良く音楽祭は終了しました。気持ち良く。体育館の舞台は大きく破壊されましたが。

午後十時。入寮して、初めての夜。

というのは、手続きを本格的に済ませてから初めて、という事。

厳密には2日目です。多少強引ですって？気にしないで下さい。
特にタイトルには。

「いやあゝ入学式のあとに、音楽祭があるなんて、びっくりだったね
でも、一番びっくりだったのは雅だよ！
内緒で出るなんてひどい！言ってくれたら私も一緒に出たのに！」

さて、こう申しておりますのは、涼。
何を夢見空言をほざいているのでしょうか、
彼女はこの上なく、とてつもない、最低最悪、前代未聞の、音痴
です。

「ふふ、ごめんね！。
ほんとに誰にも秘密だつて言われてたからー」

うーむ。こうして、何でもない場面だけ抜き取ると、ただの美人
なのですが…

「さて、そろそろ消灯時間だから、電気消しますよー
涼は早くベッド入って。雅、布団持ってきて」

「はい」

とって持ってきた布団は一つだけ。

意図は瞬時に理解できました。

私のベッドで、掛け布団一つ、つまり三人で寝ようという陰謀です。

さらに雅の意志を読んでか、涼はすでに「私のベッド」に寝転んで恍惚の表情。

ここまで踏まえて、私は冷静にツツコミました。

「シングルベッドですよ、3人も入ったらキツイし、暑いつての。今朝、充分思い知ったでしょ。」

そう、それは今朝のこと。

昨夜、まだ荷物が散乱していたこともあり、シングルベッドに3人で寝たのです。

しかしまあ暑いこと狭いこと。皆、深夜3時に目が覚めました。

そして、汗を流すためシャワーを浴び、4時から再び就寝。

最悪。最悪でした。ああ、言うの忘れてたから、今になってイライラしてきた。

「いや？思い知ってなんかないよ、

早苗ちゃんの汗の匂いなら覚えてるけど」

「うん。むしろ早苗のシャワーしてる音がまた聞けて幸せだった」

これです。こいつら。

それとないセリフに軽い恐怖を感じますが、ここは耐えましょう。

「でも、これからだんだん暑くなってくるし。頼みます。離れてください。お願いします」

「そ、そこまで言うなら…」

女の子の土下座は年齢性別を問わず効果抜群です。土下座までする必要あるのかって？あります。これをしなければほんの数日の間に再犯を犯します。私の寝たあとに。

「ふう。じゃあとりあえず消すよ、電気」

パチリ。

この時私は忘れていました。
今朝、私がどうやって着替えを済ませたのかを。

第6輪目 タイが曲がっていてよ

もぞ…もぞもぞ…

「あ、ああ、ッ…」

もぞ…もぞ…もぞ…

「はあ、はあ、はあ、…ッ！」

もぞもぞ…

「あっ…あっ、あ、あッ、暑いいい！」

暑さで目が覚めるのは、私の考えうる内で最悪の寝起きです。しかし、今日は最悪の寝起き条件を更新しました。布団の中で自分にかぶさってごそごそ動いている少女が二人。

蹴り飛ばしました。故意的なものではありません。あれは反射です、反射。

「ああ、ひどーい」

「せっかく、着替えを済ましといてあげようと思ったのにー」

全く動じず即座に起き上がる、彼女たちのタフさには、正直毎度驚かされます。

しかし着替えを済まそうと思ったという発言は捨て置けません。慌てて自分の体を見ると、中途半端にボタンの食い違ったシャツが。

ちきしょう。またかこいつら。

「着替えは自分でするので。視姦しないでくれる？」

ため息をひとつついて、目を輝かせて私の肢体を見つめる彼女達を叱責しました。

「ごめんなさい！」

…もう慣れっこでした。
満面の笑みで謝罪されるのは。

こんなのと3年間密着して過ごすと思うと、
今から気が滅入ります。

…とは言ってもせいぜい、
毎夜何かが軋む「謎の音」が聞こえる隣の二人部屋よりはマシで
すが。

朝の今でもキシキシ聞こえることを思うと、
多分今日は欠席して、延ちょ……ごほん。

「皆さん、ごきげんよう。」

4年1組の担任になりました、あまくたひゆき天草早雪です。
これから一年間、どうぞよろしく」

高等部での初ホームルーム、まずは担任の自己紹介から始まりました。

良かった。割と普通そうな人で。
運の悪いことに、クラスに例のルームメイトが二人もいるのですから、

これ以上面倒な人が増えると…

「あれ、もう予鈴なっちゃいましたね。じゃあ続きは午後のホームルームで。

皆さん、次の授業に行く準備をしてください。1時間目は移動教室ですよー。

あ、あ、すいません、流川さんは少し残って下さい。」

「え？あ、分かりました」

おかしいな、特に呼び止められる心当たりはないのですが。
一時間目は音楽なので、既にクラスメイトたちは
あつという間に、誰一人教室から居なくなりました。

すると、その割と小柄な担任は、私に近づいてこう言いました。

「襟が曲がっついてよ」

「あ、どうも」

あれ？何この人？こういう人なのかな？この人。少し怖くなってきました。

そして、やはりあのセリフは、「襟」だとしっくりこないな、とも思いました。

彼女は私の襟を正すと、その童顔に大人の微笑を浮かべて、満足そうな表情で歩き去っていきました。

一度してみたかっただけ、という理由だと思いますおそらく。

別に迷惑がかったわけではないのですが、直感がはたらき、一応、重要要注意人物と認識することにしました。

「早く！授業始まっちゃうよ！」

ちょうど廊下の角を曲がった担任に、疑惑の視線を送っているとわざわざ帰ってきてくれた涼に声をかけられました。ちよつと嬉しかったので、若干照れていたのは秘密です。

余談ですが、行く途中、3組のカップルとすれちがいました。ええ、ここは女子校です。

…はあ

なんなんでしょう、ほんと、この学校って。

第7輪目 鶴の啼き声とカスタネット（前書き）

そろそろ人物紹介回終わりです笑

第7輪目 鶴の啼き声とカスタネット

1 限目 音楽

「うわー雅って相変わらずすごい歌唱力だねー」

「だよー、でも流川ちゃんも歌結構上手くない？
ていうか声可愛い。あれは惚れちゃうよー」

「え、え？あんたって「そう」だったの？」

「は、はあ？ば、ばか違うって。そういう「惚れ」じゃないって！」

ああ、安心した。

丸聞こえだからこれ告白なのかなと思いました。

「うーん。みんな歌上手いな。」

やっぱり女子の高音は聴いてて気持ち良いね！ははは！
先生の男子校では男達がむさ苦しくて……」

音楽室の黒板の前で指揮とるこの男は、清升きよまする類。あだ名はマッスル。

やたらと自分の地元のことを話したがる変な男です。
体育教師と間違っようなイカツイ風貌をしています、

校内の不良グループのヒモにされているという噂もあるくらい臆病者。

「清升先生。授業を進めて下さいませんか」

と声を上げたのは、4年1組の絶対的司令塔、

学級委員長兼、風紀委員4学年長、

鶴の異名を持つ舞鶴風火まいつるふうか様です。

なんて強そうな名前。

好き勝手に楽器を弄っている者も、

教室の端で猥談をしている者も、

静かに席に着いて、水を打ったように静かになる教室。

そして蚊の鳴くような声で

「はい」

と返事をするマッスル。

鶴の一声とはこのことです。…あれ？違いますか？

そんなこんなで音楽の授業は無事終了。

舞鶴風火の実力を思い知らされました。

これは通常の意味で要注意人物録に追加です…。

「かつこ良いなー、風火ちゃん。
学級委員長の實禄があるね。

あの教師の昔話をたったの一言で仕留めるとは」

と、涼。

カスタネットを叩き、リズム感の訓練をしながら（とんでもなく音痴なので。）

目を輝かせています。カンカンうるさい。

「はいはい、さ、教室帰るよ」

私は、のんびりと舞鶴さんを眺めている涼を急かしました。

というのも今から、舞鶴さん名物「教師に説教」が始まるからです。

とばっちりを食らわぬようにと生徒達は音楽室を足早に出て行き、音楽室には鶴とマッスルだけに。

戸の向こうから聞こえる

女子の怒鳴り声と、男の泣き声を無視して

私は早歩きで教室に向いました。

第8輪目 百合の園の怪談／フランス人形メリー（1）

とある放課後、

涼が、「私の先輩の悩みに乗ってあげてほしい」と
なぜか私に相談してきました。

更に更に、なぜか、私達の部屋でお悩み相談会を開くハメになっ
てしまいました。

先輩の名前は、愛川文香^{あいかわふみか}。私より小っさい（背もお胸も）口〇体
型の可哀想な人です。

ちなみに、あの音楽祭のメタルバンドのドラムを務めていたらし
い。

なんでも、イニシャルが「F・A」なんで「ファ」になったそう
です。

それはさておきとりあえず悩みを聞いてみると、
結構怖い内容でした。一言でいうと心霊系です。
何でこんな悩み持ち込んだんでしょうか、涼…。

「あのさ、これ…見て欲しいんだ…」

三日前の6時半にきたメールなんだけど…」

彼女はおもむろに携帯を取り出すと、
奇妙なメールを見せつけてきました。
雅が丁寧に読み上げます。

「なにになに？」

ごきげんよう。

わたし、メリー。

いま、あなたの まちの えきに いるの…
こ、これって…」

「都市伝説のやつじゃないですかあああああ！」

涼がとんでもない大声をあげて腰を抜かしました。
あれ、悩み聞いてたんじゃなかったのかな。

「そ、そうなんだ。

で、これが二日前の6時半…」

「ごきげんよう。

わたし、メリー。

いま、あなたの がっこうの もんのまえに いるの。

…う、うわあ」

だ、だんだん近づいておる…。
これってそろそろ…

「それで、これが昨日の…

ごきげんよう。

わたし、メリー。

いま あなたの いえの とびらの まえに いるの。

…てわけです。

そのー…。どうしたらいいかな？」

どうもこうもないでしょ…これって次は「部屋」だよ…
つまり寮の自室…。

それが今日、あと30分後、ということは…

「先輩。申し訳ないが出て行ってください。」

「え？」

「あなたが居たら私らまで殺されるでしょおがああ」

「え？…ええっ！

や、やだやだ！あたしを見捨てないでよ！怖いよ！
助けて！お願い助けて下さい！」

目に涙を浮かべて懇談する口。娘。

罪悪感に心を焼かれますがここは鬼にならせてもらいます…！
私だってお化けとかそういう類は苦手なんです！

「何とかする方法ならあるよ」

ここで雅が一声。

な、なんだよ、そんなら早く言えよ！。

と、目でプレッシャーを与えておきました。

「逆に驚かしてやるんだよ。

どう？面白そうじゃない？」

はて？驚かすとは？

「準備はいい？」

雅が小声で確認をとります。

「おーっけー」

そして6時29分。

ピロロロロロロロロ

ごきげんよう。
わたしメリー。

いま あなたのいる おへやの まえに いるの。

「よし… 一気にいくよ…」

ガチャ…

「うわあああああああ！」

「きゃあああああああああ！」

周囲の迷惑なんて気にせず、

私達は精一杯の大声をはりあげながら

勢い良く扉をあけました。

すると思ってもみないことに、

私達よりさらに大きな悲鳴が返ってきたのです。

おそらくメリーさんであろう、

お人形さんのようなゴスロリ美少女がしりもちをついて、

携帯電話を握りしめた手をわなわなと震わせながら

私達を見上げていました。

「に、にんげ…、人間の、くせに…！」

死ね！人でなし！バツ、バーカ！

バーカ！バーカ！バーカ！…ぐすっ

あし、明日は殺して、ぐすっ…やるからなっあ！」

バーカを連呼しながらその少女は走り去っていきました。
あれは本物の幽霊だったのでしょうか。

明日も来るそうなので、
次は捕まえて虐めてやろうと4人全員が思いました。

第9輪目 その姫に憧憬を抱く乙女は秒を刻む毎に増えて（前書き）

リア多忙で更新超遅れちゃいました
ごんめさなーい。

第9輪目 その姫に憧憬を抱く乙女は秒を刻む毎に増えて

「なあ早苗ちゃん、もうすぐ梅雨やねー

ところでジューンブライトって知ってる？あれなあ、

雨続きで、休日も夫婦が家にこもることが多くなるから、子作りが…」

いつも積極的に話しかけてきてくれるこのクラスメイトは、坂口さかくち巴さん。ともえ

大阪生まれのなにわっ娘です。友達もすごく多いし、「ファン」も結構いる人気者です。

身長はすらりと高く、スタイルもなかなかの高くおりちー。

八重歯が映える童顔からは、いつも笑顔が絶える事はありません。

ですが、

私とはなにやら波長が合わないようで（たまに居ますよね）、なかなか仲良くなれません。

なので、お互い仲良くなろうと努力はしているのですが、間が持たないのです…

「あ、ああ、ああ、知ってるよそれ！

で、6月に。。。したら、4、5月に赤ちゃん生まれるんだよね
それで、早生まれだから… えーっと

…あ！予鈴鳴っちゃったから、いく、先行くね！じゃ」

「おっ、おお、行つてらっしゃい。」

あ、うちもすぐ行くわ。ほ、ほし、ほしたら、またなー」

予鈴に救われました。ふう。…とまあこんな感じです。
次は調理実習でしたっけ…。

「はい！今日はギョウザを作しましょう。

でもーいつもと同じ班ではつまらないでしょうからー…

あ、誕生日順！誕生日順に並びましょう！4人班になってー。」

はあー、家庭科のおばちゃん。

なんて余計なことを…誕生日順じゃ、涼と同じ班になるやん…

油を洗剤と間違ったり、塩や砂糖をせっけん粉と間違ったりする、

あの、悪魔と…

これは実質3人で料理することになるな。

さて、12月下旬生まれの人は…あれ？

あ、おお！さな、早苗ちゃんいる！早苗ちゃんいるやん！

ラ、ラッキーッ！しかも早苗ちゃん、うちと涼の間なんや！誕生日！

これで涼と一緒に料理しなくて済むし…

え？あれ？うちら二人余り？うつつひょー！2人！2人きりや！
先生が代わりに入る？え？あ、いやもうかつ、かまわんかわまん！
やった！早苗ちゃんと同じ班や！これは仲良うなるチャンスや！
あー、何、何はなしかけよ。あーっ、ああー！
誕生日、12月なんだ、ああー あっ

「早苗ちゃん12月生まれなんや！

そしたら早苗ちゃんのお母さんとお父さんって、
11月に。。。したんやねー！私の両親と同じや！」

あっ、ああー！間違った！間違ってもうた！

ど、どないしょ… すっごいヒいとり！あかん。持ちなおさなあ
かん！

あー、もう質問するのやめよ。こうなったら料理に賭けるで。好
感度あげんと！

…あっ！痛…

あかんあかん指ざっくりいってもうた。グロッ。相当ざっくりや
ん。

あーっ、あかんあかんあかんやつやこれ。ニラめっちゃ赤なってる
まな板真っ赤。やばい…。…早苗ちゃんは…ああ、バリバリ作業
しとるやん。気付く気配ないな。

あー血あかん。頭くらくらししてきた。あかん。力、入れへ……。

第10輪目 憧憬はいずれ愛情へ昇華する

あれ、ここ…

「あ、目さめた？よ、良かった！

あの時 気付くの遅れてごめんね…」

早苗ちゃんの声…………

あ、病院…？

病院なんか…ここ

「あの…早苗ちゃん？

うち…………」

「うん。出血多量で気失っちゃってて。相当深く意識ちゃってたみたい。」

確かに凄い手ごたえだったもんな、あの瞬間。

それにしても この娘……

うちを心配して、わざわざこんな時間まで付き添ってくれたんか

……

なんや、まだ気まずい顔見知りレベルかと思つてたら

病院まで付き添つて面倒見ようとしてくれてるなんて……

もうこれ、恋び…… 親友レベルやない？

「ほんとごめんね、調理実習。無理させちゃつてたかな？」

いや！いやいや！悪いの全部うちやし！

何なのこの娘。何その申し訳なさそうな顔！

何や、何か、そそそない上目遣いで… 何や照れるな…

あれ？おかしいな。下心が

相手は女の子やのに…… いやでもこの娘……

この表情、この心遣い……

て、天使や…。

今までうちは、ただ憧れてただけと違うんかも……

心の中では早苗ちゃんが…

てか……

わざわざ一人でお見舞いに来てくれるなんて

やっぱあつちにも その気あるんかな？
いや、無いとわざわざ病院までついて来んよね… つまり… こ
れは相思相愛？

あつ、今まで会話があんま続かなかったんも
付き合い始めたばかりの、初々しいカップルみたいな甘酸っぱい
沈黙に似てるような…
なんだ。もつと早う気付いたら良かった。
うちら知らん間に、愛の二人三脚を踏み出し始めとったんやな。

「早苗ちゃん」

「はい」

「退院したら……」

早苗ちゃんの寮室で暮らしてもええ？
やっぱ、うちらって一緒に暮らすべきやと思うんよ」

「ん？」

「うち、やつと気付いたんや、自分の気持ちに。
早苗ちゃん。……いや、早苗。
うちのこ……、し、幸せにしてな」

例の呪いがこの娘にも…。

私はこの高校生活で、「正しい」女友達というのを本当に作れないかもしれません。

不定期開催！一ツ橋涼のキャラまとめコーナー

さあ、はじめました

一ツ橋涼の、不定期開催！キャラまとめコーナー！

これは、今まで出てきた仲間達を、私、一ツ橋涼が紹介する、不定期開催のコーナーです！

実は誰が司会しようが全く変わらないことは秘密ですよ

一ツ橋涼 ・学年 部活 一年生 陸上

好きなもの うなじゅう

好きなタイプ 早苗ちゃん

恋愛対象 早苗ちゃん、草食系男子

備考 早苗ちゃん大好き

流川早苗 ・学年 部活 一年生 無所属（今のところ）

好きなもの デパ地下

好きなタイプ 長身で優しい人

恋愛対象 男

備考 女の子にモテモテになる呪いをかけ

られている

リッチー雅・学年 部活 一年生 無所属（早苗と同じ部活に入る予定）

好きなもの 呪術 神話
好きなタイプ 可愛い イイ匂いのする人
恋愛対象 ガチ
備考 早苗に呪いをかけた本人

天草早雪・担当教科 現代社会

好きなもの 可愛い下着
好きなタイプ 可愛い年下の子♪
恋愛対象 年下（男女）
備考 今のところなし

舞鶴風火・学年 部活 一年生 生徒会

好きなもの きつちりしたこと
好きなタイプ 高校生が不純な交際をするべきでは

ありません

恋愛対象 勉強が恋人
備考 成長を続ける乳が原因の肩こりが悩

みの種

愛川文香・学年 部活 二年生 軽音部

好きなもの 怪談 音楽
好きなタイプ 二宮かずなりくん
恋愛対象 男
備考 校内のバンドに所属

坂口巴 ・学年 部活 一年生 陸上

好きなもの 女の友情 焼き魚

好きなタイプ 早苗

恋愛対象 男、早苗

備考 早苗の呪いにあてられた一人

メリー ・学年 部活 ? 歳 小学生相当の容姿

好きなもの ?

備考 多分幽霊

生徒会長 ・学年 部活 三年生 生徒会

好きなもの メタルミュージック

備考 なし

以上。

不定期に開催しますので

今後もしよろしく願います！

第11輪目 桜散る皐月、愛の鬼ごっこのはじまり

春を彩る桃色の花弁も散り、瑞々しい深緑の葉で枝々が繁る五月。学園大運動会が開催される季節が今年もやってきました。

この学園では親睦を深めるためという理由でかなり早い時期に運動会が開催されます。

音楽祭がごく最近行われたじゃないかって？

…行事は多ければ多いほどいいじゃないですか。

さて運動会といえば騎馬戦。騎馬戦ですよ。

女の子達が肌を触れ合い騎馬を組んで、そして絡み合いながら戦闘する…。

実に素晴らしい競技であります。

重なる細い腕、靡く髪、滴る汗、響く嬌声（？）そしてたわわに揺れる乳房…。

……この競技…いや、儀式を考案した方には敬服の意を表せざるを得ません。

ごきげんよう。雅です。

この学園で騎馬戦といえば舞踏会と同じようなものです。

よりどりみどりの美少女の中からパートナーを選び、そして身体を触れ合い交流する。

しかもこの騎馬戦は四人で馬をつくる…つまり三人！三人も選べちゃうのです。

素晴らしい…

そこです。運動会まで残り二週間の猶予の間に、
なんとしても私は理想のプチハーレムを作りたいのです。

そのために何事も常に誰よりも一手早く、策を打っておくことは
非常に重要。

何せ、私の早苗は、私のかけた呪いのせいで、あちこちにひつぱ
りだこなのですから。

騎馬戦のパートナーを選ぶのは運動会五日前。

綿密な計画を組み立て、なんとしても彼女を騎馬に組み込まなけ
れば！

「ねえ、騎馬戦…」「いや、私もう決まってるから」

やはり来た。

かなり早い段階からくるとは思っていました、まだ二週間も前
なのに…？

とりあえず、こんな女と騎馬を組むわけにはいきません。

どうせ、スキンシップ、とか、ボディタッチ、の名の下に、

あまりにも度の過ぎた行為を仕掛けてくるであろうことは目に見
えていますから。

とはいえ、私が断ることも、本当はまだ相手など決まっていな
いことも

奴は既に認知しているはず。

その表情からは、まだまだ余裕の表情が浮かんでいるのが見て取
れます。

…これは、…長い鬼ごっこ、と考えられるかもしれませんが。
もし！負ければ、待っているのは、羞恥、圧倒的羞恥い！！！！
人が見ている中で、そういう淫らな行為をされたりしたら…
私の学園生活は崩壊。瓦礫。それどころか微塵に碎けて、最早、
粉。粉塵。塵灰。

絶対に捕まってなるものか。

今、この会話をもって、私の二週間に及ぶ逃亡劇が始まる…！

第12輪目 呪われた鶴と灯台下狙う策士

「あの、舞鶴さん。私と騎馬組んでくれませんか？」

昼休憩、図書室で勉強に励む舞鶴さんに声をかけた。…無視されてしまいました。

舞鶴さんは勉強中は、周りの人間の存在を意識できなくなるとい
うのは、有名な話です。

私は仕方なく、肩をぽん、と叩きました。

「…はあ、誰ですか！人が熱心に…あ、るる、流川さん、でしたか。
な、何か私に用があるんですか？わ、私なんかに…？」

普段からは想像もできないこの焦りっぷり。見れる私はラッキー
なのかもしれません。

舞鶴さんまで私の呪いにあてられてしまっているとは…

少し申し訳ないような気がします。今は好都合。

彼女は私の虜。いいなりです。 ムフツ

「騎馬、一緒に組んでもらいたいです…。」

舞鶴さんをパートナーの一人に選んだのは、やはり理由がありま
す。

舞鶴さんは、人との約束を絶対に破らないからです。完璧に遂行
してくれます。

他の女の子と約束を取り付けた場合、私の呪いをきかせてもそれ
は作り物の恋愛感情。

いざとなったら友情を選ぶでしょう。

「ほんとごめん、早苗ちゃん！友達のトコが一人足りないらしい

から……」

あるある。

ヒトの雌は地球上で最も気まぐれな生き物ですから、安易な約束くらいさらっと破っちゃう。

ソースは自分。

その点、舞鶴さんは律儀で良い子なんです…。

「え？あつ、はっはい。もちろん、喜んで」

「あ、有難うございまあす！」

よしっ！一人確保！へっ　ちよろいね
ヤツの…雅の魔の手から一步逃れたぜ。

図書室中から鋭い視線が突き刺さる…　声大きすぎたかな。

「ふふふ、いくら足掻いても無駄、無駄ア！」

舞鶴さんとあつい握手を交わしている最中、
後ろからあの恐ろしい声が私に降りかかりました。
この鬼こつこの「鬼」の雅です。

「なんの……用だ……っ」

私と雅の周りをゴゴゴゴゴ…という効果音が包みます。

「ただ忠告をしにきただけ。どんなに足掻いても私の魔の……いや、恋の手？からは絶対に逃れられないんだから！」

「まず、足掻くっていう表現は間違ってるよ……。別に私はあなたの術中にあるわけではないからな！」

そうだ、何が足掻くだ。舞鶴さんを仲間に引き入れたのだ。

まずはこっちが優勢なはずですよ！！

先に確実な騎馬のメンバーを完成してしまえばこっちのものです。雅のおそらく仕掛けてくるであろう、買収に傾かないような、確実なメンバーを……。

「ふふ、勘違いをしているみたいだね……。灯台下暗って言葉、知ってる？」

「ふん、私にとって「灯台下」はあんたが涼くらいのもん。勘違いしてるのはそっちじゃないの？」

「ふっふふ、やっぱり！このまま行けば、私の「スキンシップこうげき」は免れないよ。せいぜい「足掻く」んだね……」

そういつて「鬼」は立ち去りました……。

舞鶴さんというカタいメンバーを先にとられて、悔しくて吠えてるだけだといいんですが……

ヤツが無駄な虚勢を張るようなことは考えにくいですし……。

まさか本当に私はヤツの術中に……？

いや、そんなことは絶対に！無い！

運動会までまだまだ時間はあります。じっくりとメンバーを厳選して、

大衆環視の中での「スキンシップ」の恥辱をなんとしても避けなければ！

第13輪目 シークレットリップクリームとプロミス

「ねえ、涼」

「なんですか早苗ちゃん」

愛用のスパイクの調節をしながら、応答する涼。

いつもなら話しかけただけで、熱いくらい密着して嬉しそうに返事をするが、

この時だけは、めちゃくちゃ集中しているのです。

毎日、このくらいの程好い距離感なら、どれほど心地良い関係か……。

「まだ、雅に買収されてない？ 騎馬戦のことで」

「んー？ なにそれ。」

「おお、良かった！ じゃあ、私と騎馬組んでくれない？」

と、言った瞬間、彼女の動きがピタリと止まり、プルプルと震えだしました。

ゆっくり振り返ったその顔には歡喜の涙を浮かべて。

「さ、早苗ちゃん……。認めてくれたんだね……。ついに私を……」

「え？」

「私が社会的に安全な人間だって認めてくれたんだねええ！」

よほど嬉しかったのか、顔をくしゃくしゃにして号泣。

しかし、その発言は、日頃の自分の行いに何かやましいことがあることを完全に認めている。

「ありがとうありがとう……。私、早苗ちゃんのリップクリームを○○○○したり○○で○○○○的○○○○。なのに……。あんなことしたのに、許してくれるんだね」

「あ、ああ、はは、そんなことしてたんだ。はは、聞きたくなかったな」

これには、さすがの私もめまいがしました。

しかし、安心してください。あれはダミーです。

私の愛用のリップは常に胸ポケットに装備していますから。

か、彼女が何をしていたかは、みなさんの想像におまかせします

……。

ただ、ストーカー行為の加減でいえば、彼女は雅よりはるかにコアダということは断言できます……。

「じゃ、じゃあ、雅に買収されずに、約束を守ってくれたら、運動会後にあのリップクリームあげるから」

涼の。。。。リップクリームを処分するのにもちょうどいいし、
おいしい提案をやった。
よし、二人目ゲット。

「ええ……」

「え？ 何か不満？」

「早苗ちゃんが現役で使ってるリップじゃないと意味が無いんだよ
……」

おうふ……、これは想像以上のド変態っぷり。
某イジリーより確実にたちが悪いですね……。

「じゃあ、騎馬組んだら、早苗ちゃんが私のリップに。。。。して
よー！」

「えっ……」

「いやならいいんだよ……？ でももしかしたら私、雅ちゃんに買
収されちゃうかも……」

あ、あれ？あれね？ いつの間にか私の方が下の立場に……
な、なんてこった……。しかし、コイツを逃すわけにはいかない

……。

彼女の私への執着は確実に信用できる。　ここは我慢だ……。

「わかったよ。　涼のリップクリームに。。。。する」

「交渉成立ですね!!」

彼女は満足そうに満面の笑みを浮かべて、ガッツポーズをかますと、

すぐにスパイクの調整の続きに取り掛かるのでした……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2317p/>

あんたのせい ~ girls' blame ~

2011年10月10日00時00分発行